

卒業論文の要旨

論文題目	移動する子どもたちの言語教育－神奈川県のある在県外国人特別募集枠入試に焦点を当てて－
氏名	鈴木夏海
メジャー	日本語教育学
<p>(要旨)</p> <p>現在の日本は、少子高齢化に伴う人口減少により、経済的基盤は安定したものとは言い難く、日本人のみでは支えきれなくなっている。人口減少という大きな問題を抱えている日本には、外国人の力が必要であり、日本社会は外国人と切っても切れないような関係になっているといえる。しかし、それに伴い外国にルーツのある子ども達が増加をしているということを忘れてはいけない。彼らは親である大人とは違い、本人の意思とは別に日本での生活を余儀なくされている。そうした外国にルーツのある子ども達のことばの教育は日本ではどのようにして行われているのか。</p> <p>本稿では筆者が活動をしてきた神奈川県のある県立高校に焦点を当て、外国にルーツのある子ども達の言語教育について考察した。その結果、日本での第二言語教育すなわち日本語教育は未だ課題を多く抱えており、生活の面でことばの壁に苦勞している子どもたちや、2つの言語とも言語能力が年齢相応の言語に達しないダブルリミテッドの状態に陥ってしまっている子どもが多くいることがわかった。ダブルリミテッドは適切な対応をすれば解決すると言われているが、その対応すらままならない状況である。そのような状況下では、多数派である私達の歩み寄り、子どもたちの母語・母文化の教育、理解が必要だということがわかった。そして、現場の日本語教育認知度もあげなければ適切な日本語指導を行うことは難しいということがわかった。</p> <p>グローバル人材育成を目指している日本の中で、外国にルーツのある子ども達のことばの教育を充実させ、2つのことばを同じレベルで使える均衡バイリンガルの状態にできる環境を整えた時、彼らこそが日本の必要としているグローバル人材となり、これからの日本にとって重要な役割を果たすのではないかと筆者は考える。</p>	

(指導教員の推薦のコメント)